

「旧約の信仰者たちの手本」 預言者ダニエル① (11:32~38)

■ヘブル人への手紙の構成

二つの主要な区分	内容	箇所	警告
第一区分： 神学的理論を中心に (適用としての警告 も含む) ユダヤ教の三本柱と 御子との比較	テーマ	1:1~3	
	天使たちに優る御子	1:4~2:18	警告① 2:1~4
	モーセに優る御子	3:1~6	
	第二の警告	3:7~4:13	警告②
	アロンに優る御子 (レビ族アロンの家系の祭司 職に優る御子) 注①	4:14~10:18	警告③ 5:11~6:20
第二区分： 適用(御子の優位性を 理解した上での、信者 の歩み)	勧めのための2つの基盤と4 つの勧め、警告、励まし	10:19~39	警告④ 10:26~31
	旧約の信仰者たちの生き方を 手本とする	11:1~40	
	信仰を持ち続けることの勧め	12:1~29	警告⑤ 12:25~29
	まとめとしての勧め	13:1~25	

注① レビ族アロンの家系の祭司職 ⇒ 以下、「レビ系祭司職」

■「旧約の信仰者たちを手本とする」11章の構成

細目	内容	箇所
信仰の忍耐	信仰の特徴	1節
	このような生き方が可能であることを実証した人々がいる	2
	目に見えないものを確信する事例=天地創造	3
族長時代以前	アベル	4
	エノク	5~6
	ノア	7
族長たち	アブラハム	8~19
	イサク	20
	ヤコブ	21
	ヨセフ	22
荒野の旅	モーセの両親	23
	モーセ	24~28
	イスラエル民族の人々	29~30
	ラハブ	31
試練の中で	イスラエル国史に見る信仰(士師たち・王たち・預言者たち)	32~34
	信仰は死を乗り越える	35~38
信仰の勝利		39~40

旧約の信仰者たち(時系列で)

## ■旧約の信仰者たちの手本

手本となる生き方	信仰者と (関連箇所)	箇所
神の定めた方法によって、神に近づく	アベル (創4:2~8、マタ23:35)	4
神のことばを伝える。世からは拒絶される。しかし、神との交わりの中に憩う=神と共に歩む、神に喜ばれる	エノク (創5:21~24、ユダ14~15)	5~6
神の命令に従順に従う 世を罪に定める	ノア (創6:1~22、Ⅱペテ2:4~5)	7
神の召命を受けて 生まれ故郷を離れる	(使徒7:2~5、創11:31~12:7)	8
寄留者となる	(創13:18、22:19、23:4、24:67、25:27)	9
↓ 神が設計し建設された都を待ち望む	ア ブ ラ ハ ム 「私を生まれ故郷から連れ出し、私に誓ってこの地を与えると約束された天の神」(創24:7)	10
↓ 不可能でも子が生まれるという約束を信じる	(創17章、ロマ4:17~22、創18:1~15)	11~12
より優るパトリス (父の地) を求める=神の都	【イサク、ヤコブも】 事実、神は彼らのために都を用意しておられた	13~16
イサクを捧げることを通して復活信仰を表明する	(創22:1~18)	17~19
未来について、神の約束を信じる	イサク (創25:21~34、27:1~40、28:1~5)	20
	ヤコブ (創47:28~48:20)	21
	ヨセフ (創50:22~26)	22
神のみこころを受け取ったとき、信仰によって決断し、実行する	モーセの両親 (出2:1~2)	23
	モーセ (出2:3~15)	24~26
	モーセ (出2:15~25、3:1~13:16)	27~28
	イスラエルの民 (出13:17~14:31)	29
	(ヨシュ1:1~6:21)	30
	ラハブ (ヨシュ2:1~24、6:22~25、マタ1:5)	31

手本となる生き方	信仰者と(関連箇所)	箇所	
試練の中で、信仰による <u>勇気</u> を発揮した	イスラエル国史に見る信仰(士師たち・王たち・預言者たち) 士師たち : ギデオン、バラク、サムソン、エフタ 王たち : ダビデ 預言者たち : サムエル	32~34	
国家的勝利を得た	国々を征服した	ヨシュア、士師たち、ダビデ	33
	正しいことを行った	ダビデ、サムエル	
	約束のものを得た	ギデオン、バラク、ダビデ	
個人的救出を体験した	獅子の口をふさいだ	<u>ダニエル</u> サムソン、ダビデ	34
	火の勢いを消した	<u>ダニエルの3人の同僚たち</u>	
	剣の刃をのがれた	モーセ、エリヤ、エリシャ、エフタ、ダビデ	
個人的な賜物を発揮した	弱い者なのに強く	ギデオン、サムソン、ダビデ	
	戦いの勇士となり	ヨシュア、バラク、ダビデ	
	他国の陣営を陥れた	ダビデ、ヨシヤパテ	
信仰は <u>死を乗り越える</u>	女たちは死んだ者をよみがえらせてもらった 【I列17:8~24、II列4:8~37、ルカ7:11~17、ヨハネ11:1~44】 (これに対して) ほかの人たちは、 <u>さらにすぐれたよみがえり</u> を得るために、釈放されることを願わないで・・・	35~38	
ほかの人々は、死に至るまでの信仰を示した	あざけられ、むちで打たれた	<u>エレミヤ</u> エレ20:2	36
	鎖につながれ、牢に入れられた	ヨセフ	37
	石で打たれた	ゼカリヤ II歴24:20~22	
	のこぎりで引かれた	イザヤ	
	試みを受けた	ヨセフ	
	剣で殺された	ウリヤ (IIサム11:1~12:9) ( <u>エレ26:23</u> )	
	羊とやぎの皮を着て歩き回った	エリヤ II列1:8	38
	乏しくなり悩まされ苦しめられ	預言者たち オバデヤ I列18:3~6	
	この世は、彼らにふさわしい所ではなかった		
	荒野と山とほら穴と地の穴とをさまよい		
11章全体の結論 信仰の勝利	旧約の聖徒たちは、約束のものをまだ受け取っていない。約束の成就是、未来のこと。	39	
さらにすぐれたもの 【メシア王国】 を、受け継ぐ	旧約の聖徒たちが待たされる理由は、私たち新約の聖徒たちといっしょに受けるため。同時に、私たち新約の聖徒たちは、旧約の聖徒たちの忍耐を手本として、忍耐をもって信仰生活をするため。	40	

## ■はじめに

## 1. 手紙の背景と 11 章の内容

- (1) この手紙が書かれた時期は、紀元 64 年から 66 年頃。ユダヤ人の中でローマ帝国に対する反乱の機運が高まる中、愛国主義的な同胞たちから教会に対する迫害が激しさを増していた。一部のユダヤ人信者の中には、迫害を鎮静化するため、いったんエルサレムの神殿祭儀に戻ろうという動きが出始めた。この背教の動きに対して、著者は警告のためにこの手紙を書いた。
- (2) 迫害の中で必要とされるのは、信仰による忍耐。この手紙の 11 章は、信仰による忍耐をテーマにしつつ、旧約聖書に記録された信仰の先輩たちの手本にならおうという内容である。

## 2. 前回までの流れと本日の内容

- (1) 北王国の歴史を概観し、預言者エリヤとエリシャから信仰の手本を学んだ。
- (2) 南王国の歴史を概観し、分裂後の王を 4 代ずつ 4 期に分けて概観した。最後の第 4 期は計 7 人の王が立ったが、世代としては実質的に 4 代であった。
- (3) 南王国の合計 19 人の王の中で、明確に信仰を持ったことがわかるのは、第 1 期ではアサとヨシャパテ、第 3 期ではヒゼキヤ、第 4 期ではマナセとヨシヤであった。彼ら 5 人から、それぞれ信仰の手本を学んだ。
- (4) 第 3 期において 54 年間にわたり活動した預言者＝イザヤ BC740~686
  - ① イザヤは、預言者としての召命を受けたときに、あらかじめ次のように主から語られていた。イザヤの伝える預言を聞いても民は悟らず、預言の成就を見ても目を堅く閉ざすであろう (イザヤ 6:8~10)。
  - ② 人間的な目から見れば、報われることのない 54 年間である。「のこぎりで引かれ」とは、第 4 期に入ってすぐ、マナセ王によってイザヤが殺されたことを指す (聖書に記載なし、ユダヤの伝承)。
  - ③ イザヤの信仰の手本とは、まさに忍耐である。
- (5) 第 4 期において 41 年間にわたり活動した預言者＝エレミヤ BC627~586
  - ① エレミヤは、ヨシヤ王の治世第 13 年に預言者としての召命を受けた。ヨシヤ王は 20 歳くらい、エレミヤも同年齢であったと推定される。
  - ② エレミヤは、その後、最後の王となるゼデキヤ王の治世が終わり、エルサレムが陥落する年まで、41 年間、預言者としての務めを果たした。
  - ③ エレミヤの活動を一言でいえば、「あざけられ、むちで打たれ」(ヘブル 11:36)、公衆の前で足かせをかけられて辱めを受けるなど、苦難の連続である。
  - ④ エレ 1:8、17・・・エレミヤは主から「恐れるな。」と命じられていた。主がともにおられ、かならず助け出されると、主の約束を信じ続けた。彼は、忍耐の預言者であった。
  - ⑤ 新約聖書で、主の兄弟ヤコブは、次のように語る。「苦難と忍耐については、兄弟たち、主の御名によって語った預言者たちを模範にきなさい」(ヤコブ 5:10)
- (6) 本日は、エレミヤの活動をあらためて振り返りながら、捕囚時代の預言者ダニエルの時代背景を見ます。これまで 1 年以上にわたり旧約聖書に記録された信仰の先輩たちの手本にならうというこの学びをしてまいりましたが、ダニエルを最後といたします。

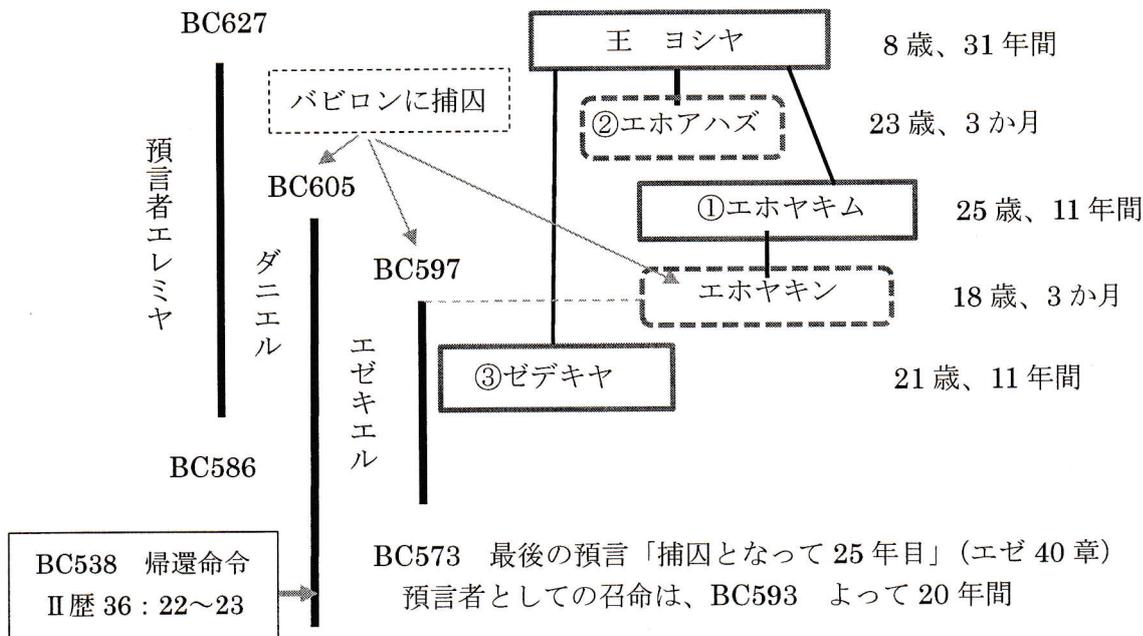
□本日の内容 預言者エレミヤを復習しつつ、ダニエルの時代背景を学ぶ

1. エレミヤは、預言者としての召命を受けたときに、あらかじめ次のように主から命じられていた。激しい反発を受けて命の危険も感じるようになること、しかし、主が必ずエレミヤと共にいて救い出すので、恐れてはならない (エレ 1:7~8、17~18)。
2. 主の予告のとおり、エレミヤは、脅され、打たれ、足かせにかけられ、裁判にかけられるなど、苦難を受け続けた。彼の苦悩の叫び (エレ 20:7~18)。
3. エホヤキム王の治世第 3 年、BC606 年、バビロニア軍が侵攻し、エルサレムを包囲した。翌年、第 1 回捕囚。このとき少年ダニエルたちがバビロンに連れて行かれた (ダニ 1:1~6)。「王族か貴族を数人」、「ユダ族のダニエル、・・・」
4. 第 1 回捕囚が起きた年は、エレミヤが預言を開始して 23 年目 (推定 42 歳頃)。BC605 年、エホヤキム王の治世第 4 年、この年、エレミヤは、バビロニアの支配は 70 年続くと預言した (エレ 25:1~14)。
  - (1) エホヤキム王もいったん捕囚になった (II 歴 36:6) が、バビロニアに忠誠を誓ったので、助けられ、ユダの王に戻った。
  - (2) しかし、それから 3 年後に再び、バビロニアに反逆した (II 列 24:1)。
5. BC598 年エホヤキム王が没した。その遺体は丁重には扱われなかったと推定される (エレ 22:18~19)。その子エホヤキン 18 歳が王位に就くと、すぐにバビロニア軍が来て町を包囲した。
6. エホヤキン王は降伏して捕虜となった。BC597 年、第 2 回捕囚 (第 1 回からは 8 年後)。
  - (1) 王、王の妻たち、王の母、家来たち (兵士たち 7 千人と勇敢な戦士たち)、高官たち、有力者 1 万人、職人と鍛冶屋 1 千人もみな、捕らえ移された (II 列 24:6~16)。
  - (2) この第 2 回捕囚の中に、祭司エゼキエルがいた (エゼ 1:1~3)。
  - (3) バビロンの王の側近として、ダニエルがいることは、捕囚の民のなかでも知られていた。エゼキエルの預言の中には、ダニエルの名が、ノアやヨブの名と並んで言及されている (エゼ 14:14)。
  - (4) エレミヤは、捕囚の民たちに手紙を書いて、彼らを励まし、70 年の預言を伝えた (エレ 29:1~23) → 29 章 1~6 節、10 節
7. バビロニアは、エホヤキン王に代えて、エホヤキンのおじ、ゼデキヤを王にした。このとき、エレミヤは、「二かごのいちじく」の預言 (エレ 24:1~10)。
8. ゼデキヤ王は、21 歳で王となり、11 年間の在位であった。王となって後、ゼデキヤはバビロンの王に反逆した (II 列 24:20)
  - (1) ゼデキヤの反逆に対して、バビロニア軍はエルサレムを包囲したが、エジプト軍の動きを見て、いったん退却した。このとき、エレミヤがエルサレムから自分の出身地に行こうとしたとき、バビロニアへ逃亡しようとしていると疑われて捕縛され、丸天井の地下牢へ長い間閉じ込められた (エレ 37:3~16)。
  - (2) ゼデキヤ王は、エレミヤの命を助けるため、彼を地下牢から監視の庭に移した。毎日パン 1 個がエレミヤに与えられた (エレ 37:17~21)。
9. 第 2 回捕囚から第 6 年、ゼデキヤの治世第 5 年、BC592 年、主の栄光が神殿から去った (エゼキエル 8~11 章)。
10. ゼデキヤの治世第 9 年、バビロニア軍が再びエルサレムを包囲した。包囲は第 11 年ま

ゼデキヤ王への預言 (21:1~10、27:12~22、32:3~5、34:2~6、37:7~10、38:1~6、38:14~28)  
目についての預言 (エゼ 12:13)

で続いた (エレ 39:1~2)。

11. 包囲される中、第 10 年、エレミヤは監視の庭で、預言 (エレ 32 章~34 章)。
12. 町からパンが尽きる。エレミヤは、監視の庭の中にある「王子マルキヤの穴」に投げ込まれ、命が危うくなる。クシエ人の宦官が王に告げて、エレミヤを穴から救出した。エレミヤはエルサレム陥落まで監視の庭にいた (エレ 38 章)。
13. 第 11 年第 4 の月の 9 日 (7 月 18~19 日) に、バビロニア軍は町を破り、中央の門を占領した (エレ 39:2~3)。ゼデキヤ王は町から逃げてアラバを目指したが、エリコの草原で追いつかれ、逮捕された (II 列 25:4~7)。
14. 第 11 年第 5 の月の 7 日 (8 月 14~15 日) に、神殿と王宮、エルサレムのすべての家が焼かれた (II 列 25:8~9)。さらに、エルサレムの周囲の城壁が取り壊された (II 列 25:10)。
15. 第 3 回捕囚 (II 列 25:11~12)。このとき、バビロニア軍は、エレミヤを捕囚の民の中から連れ出して、エレミヤの望むようにしようと申し出た。しかし、エレミヤが答えなかったので、エレミヤに食糧と贈り物を与え、彼をユダ総督に立てたゲダルヤに渡した (エレ 39:11~40:6)。
16. その後、残留の民による反乱とエジプト逃避行。エレミヤはこれに巻き込まれる。エレミヤを通して主は、民にエジプトに行かないでユダに残るように告げた。しかし、民は従わず、エレミヤを連れてエジプトへ。
17. エレミヤはエジプトで死んだものと推定される。BC586 年、エレミヤ推定 61 歳頃の死。最後まで、主に語られたことばをそのまま語る預言者であった。そして迫害する相手を恐れるなという主の命令に従い通した、忍耐の預言者であった。



BC536 捕囚から 70 年目

最後の預言 (ダニ 10:1~12:13) ペルシヤ王クロスの第 3 年  
バビロンにいたのはクロス王の元年まで (1:21)。ティグリス川岸 (10:4)。  
ダニエルはこの預言の後、死んだ。この年、エルサレムでは第二神殿着工。